

◆ 実戦問題 26 ◆

昔、*延喜の御門の御時、*五条の天神のあたりに、(1)大きな柿の木、実ならぬあり。その木の上に仏現れておはします。京中の人こそぞりて参りけり。(2)馬、車も立てあへず、人もせきあへず、*拝みののしりけり。

かくする程に、五六日あるに、*右大臣殿心得ず思し給ひける間、まことの仏の、*末の世に出で給ふべきにあらず。我行きて試みむと思して、(3)*日の装束もうるはしくして、*檳榔の車に乗りて、*御前多く具して、集まりつどひたる者ども退けさせて、*車かけはづして*榻を立てて、*梢を目もたたかず、*あからめもせずして*まもりて、*一時ばかりおはするに、この仏しほしこそ花もふらせ、光をも放ち給ひけれ、あまりにあまりにまもられて、しわびで、大きな*糞鷹の羽折れたる、土に落ちて惑ひふためくを、*童部ども寄りて打ち殺してけり。大臣はさればこそとて、帰り給ひぬ。

さて、(5)時の人、この大臣を、いみじくかしこき人にておはしますとぞのしりける。

設問

問1 傍線(1)を格助詞「の」に注意しながら現代語訳せよ。

問2 傍線②～④の「の」と同じ働きものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①をかしかりつる人のなごり恋しく、(源氏)

②いにしへのはあはれなること多かり。(徒然)

③日数の早く過ぐるほどぞ、物にも似ぬ。(徒然)

④年いみじく老いたる嫗の白髪白きが、枕上に居て、(今昔)

問3 傍線A～Cの意味を記せ。

問4 傍線(2)はどのような様子を表しているのか。簡潔に説明せよ。

問5 傍線(3)、右大臣がこのような様子で出かけたのはどうしてか。最も適当なもの、次の中から一つ選べ。

①正式で威厳ある様子で対峙し、相手を圧倒しようと思ったから。

②権力者らしい威圧的な様子を見せ、仏を驚かそうと思ったから。

③日頃とは違った様子を見せ、人々を感心させようとしたから。

④仰々しい様子で対決し、相手を恐縮させてしまおうとしたから。

問6 傍線(4)「さればこそ」とあるが、何がどのようであったというのか。簡潔に記せ。

問7 傍線(5)を現代語訳せよ。

出典

『宇治拾遺物語』巻第二・十四
「柿の木に仏現する事」

『宇治拾遺物語』は、p10参照。

*延喜の御門＝醍醐天皇。

*五条の天神＝京の五条の南、西洞院の西にあった神社。

*右大臣＝源光という人物であるとされる。

*末の世＝末世。

*日の装束＝昼の正装。朝廷の公の儀式の時に着るものである。

*うるはしくして＝きちんと身につけて。

*檳榔の車＝檳榔毛という素材を用いた牛車。上皇・親王・大臣などの高貴な人物が利用した。

*御前＝先払いの供。

*車かけはづして＝牛を車からはずして。

*榻＝車の轆(牛車の前方に長

く差し出した二本の柄)を乗せる台。

*あからめもせず＝わき見もせず。

*一時＝二時間。

*糞鷹＝鷹の一種。

*童部ども＝子どもたち。

単語チェック

☑ののしる 動 ラ四

☑心得 動 ア下二

☑うるはし 形 シク

☑具す 動 サ変

☑まもる 動 ラ四

☑いみじ 形 シク